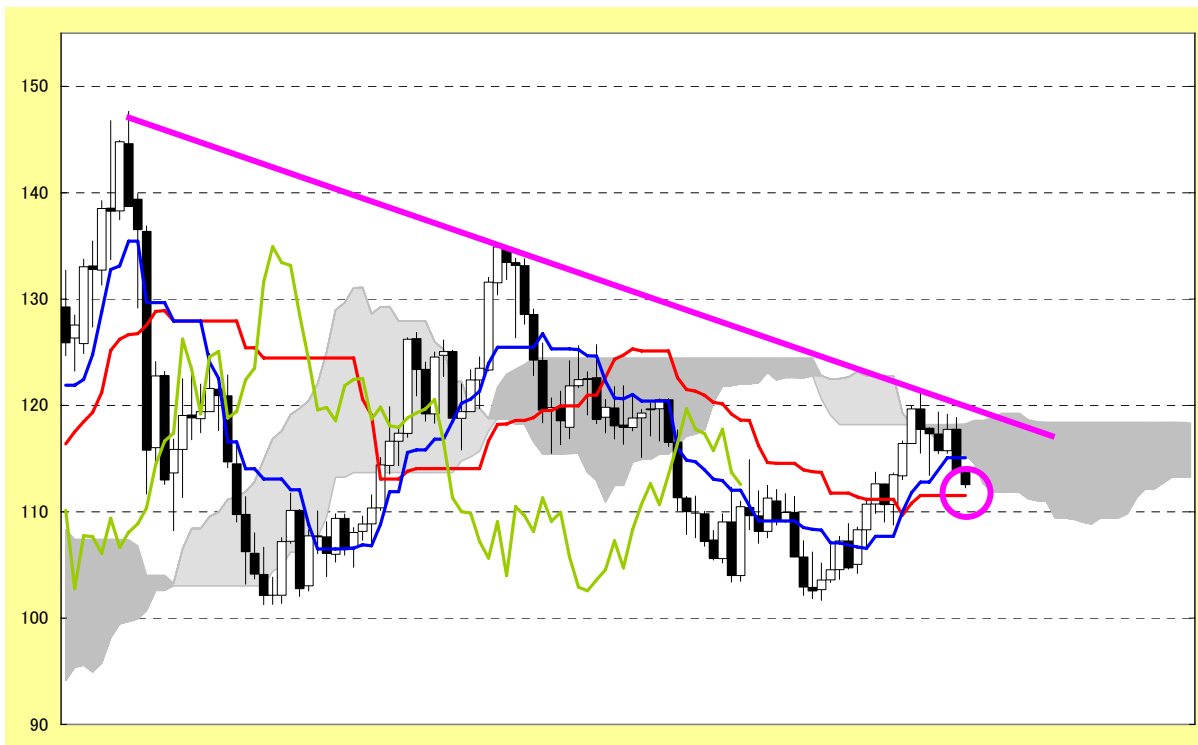


ドル／円(5/7) 上昇止められた後、基準線111.53円割れば長期下落局面に



コメント

先週の値動き＝月曜日、いきなり112円台突入、112.32円を示現。その後やや戻すも114円近辺で上値が重く、金曜日に急落。112.25円と下値を拡大した後、結局112.56円で引けた。

今週の指標＝水曜日米FOMCが最初の山場。金曜日には米貿易収支。また金曜日は荒れそうだ。現在は金利相場に加え、米経常収支、貿易不均衡にも注目が集まっているようだ。

テクニカル＝05年12月に下落トレンドラインで上昇を止められた後、下振れの展開。雲の下限で推移する中、基準線が111.53円にあり、ここで下落が止まらない場合、昨年秋以降の上昇相場は一度終わったとも見ることができる。

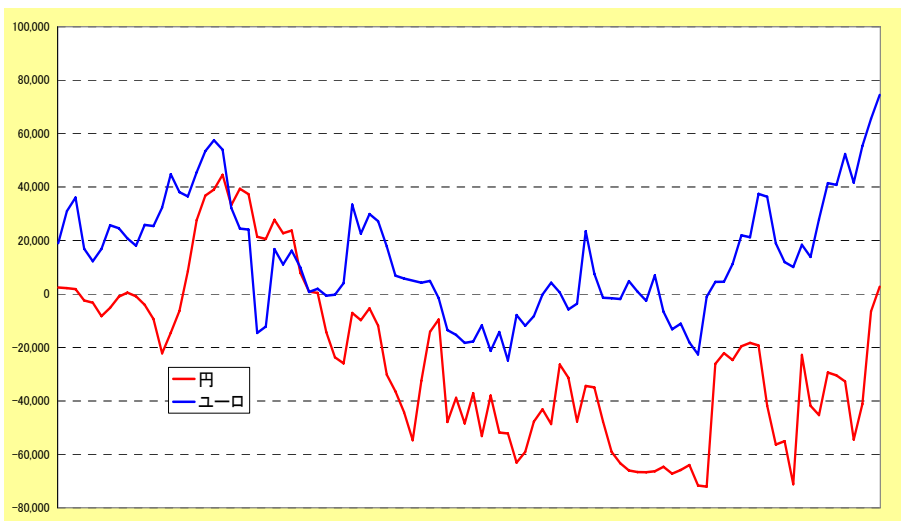
テクニカル・レート

基準線 = 111.53円	今月初値 = 113.70円
転換線 = 115.07円	今月高値 = 114.17円
遅行線 = 112.56円	今月安値 = 112.25円
雲上限 = 118.26円	今月終値 = 112.56円
雲下限 = 115.32円	

今週の短期投資例

トレンド＝下落
 現在値＝112.56円
 保有＝112.80円
 逆指値＝113.80円
 指値＝111.80円

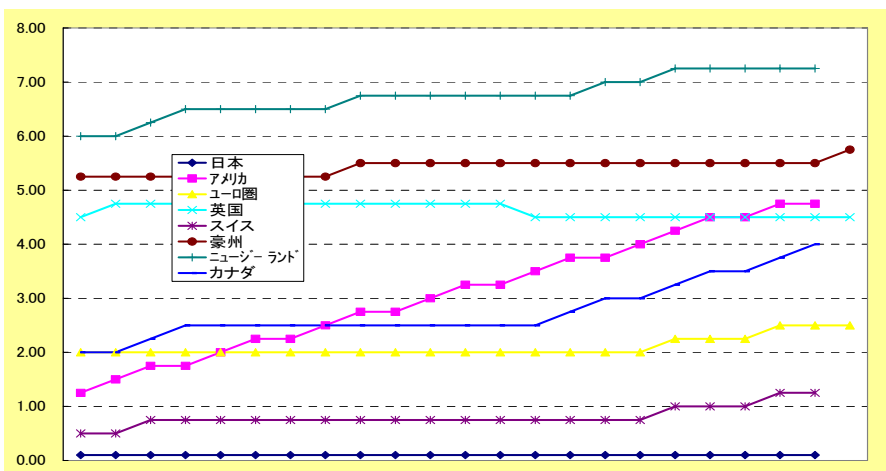
円ポジション1年3ヶ月ぶりのプラスに、FOMCは声明文に注目



IMM投機筋ポジション動向

5月2日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約0.2万枚。先週から約0.8万枚円売り越しが縮小し、ついに、円の買い越しとなった。2005年2月以来、約1年3ヶ月ぶり。投機筋のポジションから見れば、ドル高は終わったとも見える。5月2日は113.31円、5日は112.56円。さらに買い越しが増えているか。

一方、ユーロの買い越しは先週比+0.9万枚とトータル7万枚を超え、さらに高水準に。6月の利上げ見通しに加え、チャートの的にも1.27ドルを上抜けてきており強気だが、一度調整が入ってもおかしくない局面。



各国金利動向

先週は、豪州RBA政策金利が予想外の利上げ。それを受け対円では一時87円後半まで続伸。ただ、金曜日の円高を受け、86.95円で引けている。対ドルでは5連騰となり、0.77豪ドル台に乗せている。一方、BOE、ECBは予想とおり据え置きとなった。

今週は水曜日に米FOMC政策金利が発表。利上げ予想となっているものの、市場の関心は利上げ休止に関心が集まっており、声明文により注目が集まっている模様。ドル安が進む中、注目度は高い。